

# Asian History

## 東洋史学専修

中国のみならず、その北～西方の中央ユーラシアと、東～南方の東南アジア・海域アジアを含めた3領域の歴史を同時に扱う専修です。特に、中国史では近世～現代の社会・経済・法制に関して、また中央ユーラシア史では隋唐～モンゴル帝国の時期について、東南アジア・海域アジア史では、ベトナムと東・東南アジア海域世界の中・近世史などについて、世界レベルの研究が積み重ねられています。文献史料だけでなく現地調査を重視するのも本専修の特徴です。アジアを正に位置づけた世界史教育の実現など、歴史教育刷新の動きの先頭にも立っています。

2年次には、領域を限定せず、広くアジアや歴史全般への眼を開くとともに、史料読解の基礎訓練を行います。3年次から、重点的に学習する分野・テーマを絞り、専門性を深めてゆきます。3領域のいずれも、漢文史料が不可欠であるため、2年次以降、継続して漢文読解の演習に出席し、古典漢語読解能力の維持・向上に努めることは必須です。また、研究室全構成員が参加し、分野を横断して議論を行う合同演習などを通じて、幅広い視野に基づく論理的思考やコミュニケーション能力など、学問の場を越えて通用する能力を身に付けることも目指されています。本当の学問は苦労も多いが実に楽しい、ということを体感してもらえよう、熱心に指導します。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/main/>

### 教員

桃木至朗 教授 ももき・しろう  
松井 太 教授 まつい・だい  
田口宏二郎 教授 たぐち・こうじろう

### 何を学んでいるの？

#### アジア史学基礎A

中央ユーラシア草原地帯の遊牧民の活動を中心としつつ、ユーラシア全体の歴史展開の相互関連を理解するための講義。

#### アジア史学基礎B

異文化理解の一環として隣国中国の歴史をとりあげ、その文明・政治・社会・経済・思想に関する基本知識を修得するとともに、特に近世・近代史の諸事象から今日の中国理解のためのヒントを得る講義。

#### 世界史の考え方

世界最先端の研究および高校教員との長年の協力の成果を反映し、21世紀の市民社会に必要とされる「アジアを正に位置づけ日本を完全に組み込んだ」新しい世界史の講義。

### どんな授業があるの？

#### 【講義題目】

中国経済史、ベトナムの世界像と歴史像  
中央アジア=ウイグル王国史の諸問題

#### 【演習題目】

東洋史合同演習  
中国史・中央ユーラシア史・東南アジア史各英語演習  
漢籍基礎講読、漢籍中級講読  
海域アジア史研究法、古代トルコ・モンゴル文献学演習

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### 唐西州期における墓葬について

これまでほとんど分析されてこなかったトルファン出土の墓券（地神からの墓地購入を証明する文書。買地券、墓田券とも呼ばれる）について詳細に分析し、これが『地理新書』に見られる墓券の文言とほぼ一致していることを明らかにしたことは高く評価できる。また、石や木などではなく紙で作られる当該墓券のもつ地域的な特色を浮き彫りにした点も、トルファンへの漢文化の伝播を考える上で大変に興味深い。（選：松井 太 教授）

#### 阮朝嘉隆帝期の対シャム外交

この論文では、19世紀初頭のベトナム・シャム（タイ）間の外交使節の人員や旅程、相手側での待遇を扱っている。中国との朝貢関係に比べて研究が遅れている東南アジア諸国間の外交関係の解明を行ったばかりか、その分析を通じて両国の権力構造にも迫る興味深い成果を挙げており、高く評価できる。（選：桃木至朗 教授）

#### 【卒業論文題目】

唐前半期の皇帝権力と宗教諸集団  
順治初ドルゴン摂政期での漢地遠征について  
光緒三十二年水災発生後の救荒活動—以工代賑を中心として—  
唐西州期における墓葬について  
阮朝嘉隆帝期の対シャム外交  
南宋期における出嫁女子の実態—『名公書判清明集』を手がかりに—

現地でのフィールドワークが重視されています。

### 東洋史学の授業

東洋史学専修では、講義のほかに諸言語の史料講読の演習や分野横断型の研究発表などの多彩な演習が開講されています。史料を読み解いていくのは大変ですが、一度読み始めたならやめられない魅力があります。



学部生の史料講読演習



東洋史名物「合同演習」

### 豊富な蔵書・図書館最寄りの東洋史学研究室

研究室には豊富な研究書・工具書・史料が所蔵されており、図書館からも最も近く大変便利です。



### 研究室の日常

研究室には普段から学生が集い、演習の準備や論文執筆に励んでいます。良き研究は多様性や個性を重んじる自由な雰囲気の中でこそ為されるものです。そのため、東洋史学研究室では学年の垣根を越えて自由闊達な議論が交わされ、各自がのびのびと好きな研究に打ち込めるような環境作りを重視しています。正規の授業だけにとどまらず、学生たちによる自主的な勉強会も多く開かれています。



学生が集う研究室



学生たちの勉強会

### 海外・現地調査

外国史を取り扱う東洋史学研究室では、現地でのフィールドワークや史料調査が重視されています。近年でも、イギリス・スペイン・ロシア・ベトナム・ラオス・中国・台湾・モンゴルなど多くの国や地域で教員・学生が調査を行いました。また、海外留学により見聞を広げ研究に活かすことも推奨されています。



山間村落での調査（ベトナム）



中国での石刻史料調査

### 海外への発信

教員はもとより、大学院生も、日本国内だけでなく国際的な水準で学界をリードする研究を目指しています。海外で開催される国際学会への参加や、海外学術雑誌・論文集への寄稿など、研究成果のグローバルな発信にも積極的に取り組んでいます。



国際学会で発表する大学院生



### 研究室イベント

東洋史学研究室では、メンバーの親睦を深めるためのイベントが盛りだくさん。春の新歓遠足や春・秋のソフトボール大会などを通じて、教員も含む全構成員がフランクに交流する研究室が実現しています。



春の新歓遠足（姫路・姫路城）



ソフトボール大会（17年春から3連覇）